

行事で育てる

運動会を終え、子どもたちはまた一回り成長したように感じられます。

11月には音楽会、その後には6年生の修学旅行、各学年の校外学習などの学校行事を計画しています。学校行事は学級、学年の枠を越えた大きな集団での活動により、人と人とのふれあいを生み出します。また、目標へ向かって友達と協力し、喜びや苦労を分かち合うことで集団への所属感、一体感が深まり、規律、協同、責任、人への思いやりといった大切な社会性が培われます。目標が達成されたときの充実感は勿論のこと、敢えて言えば、うまくいかなかったときの挫折感も、「この次こそは！」という後の向上へ向けての糧になると考えます。

皆さんの子ども時代を思い起こしてください。実際のところ国語や算数の時間より運動会や音楽会（学芸会）、修学旅行など、学校行事の方が印象深く記憶に残っていないでしょうか。大きな行事は平素、教室で日常的に行われる授業とは違い、一種、非日常的な側面があるので、印象に残りやすいとも考えられます。しかし、何よりも行事で「心が動く」感動体験をすることが、その後、長く心に残る理由となるように思います。

運動会や音楽会がカリキュラムに位置づけられているのは、実は諸外国でもあまり例がないらしく、日本独自のもののようです。欧米の人がこれらの学校行事を見たとき、子どもとその家族、教職員、地域の方々が一緒になってひたむきにがんばり、心ときめかす姿に感動と驚きを覚えるそうです。日本のこうした学校行事が、国際的にも価値あるものと見なされているわけです。

神戸市は「人は人によって人になる」という教育理念のもと、教育振興基本計画を策定。その中に「分かる授業・楽しい学校の推進」「家庭・地域・学校の連携」「情報発信する学校」といった施策を掲げています。子どもたちは運動会などの行事を楽しみにしています。また、各行事はPTA、地域の方々の理解や協力があって充実します。そして、ひたむきに生き生きと活動する子どもたちの姿を多くの方々に見ていただくことは、学校からの大きな情報発信になります。学校行事はこれらの施策全てに絡む教育活動と言えます。

本校も、日常の教育活動において分かる授業づくりを工夫し、基礎学力の定着を目指しています。算数や国語など教科等の学習で学び取った学力は、学校行事の活動の中で応用・発展させることができます。

運動会、音楽会、修学旅行、校外学習…。学年による違いはありますが、1年の間には様々な学校行事を体験します。せつかくの行事を「あるからする」と受動的に捉えるのではなく、その「教育的価値」を今一度見直し、子どもたちを「行事で育てる」という意識をもちながら取り組んでいきたいと考えます。ときめき・感動・成就感（失敗体験も含め）…といった「非日常的」な「心が動く」体験をすることで、子どもたちが人間としての豊かさを一段とグレードアップさせることを願っています。